

本科 1 期 7 月度

解答

Z会東大進学教室

# 中 3 国語



## 【添削課題】

出典…高階秀爾『西洋の眼 日本の眼』／都立墨田川高校

## 解答

問1 (ア)

問2 (ウ)

問3 (イ)

問4 ここから先は立入禁止というしるしである。(38行目)〔20字〕

問5 日本人の「間」の感覚は、空間・時間・人間を通じ、「間合い」を正しく見定めようとする行動様式の原理である。この感覚は美意識や倫理とも深く結びついて今も生き続けており、この感覚の本質と構造を説明することは、日本の文化を理解する鍵となるだろう。〔119字〕

## 理解を深める

日本人は建築においては軒下や濡れ縁、渡り廊下のような内部と外部を自然につなぐ中間領域を作り物理的な境界を曖昧にする一方で、住まい方においては内と外を心理的に厳しく区別する。これは物理的な境界ではなく目に見えない意識上の区別であり、

この区別についての共通の理解を持つことが「身内」の前提となる。したがって内と外の関係性は時によって変わる。このような関係性の広がりをも「間」と呼び、その「間合い」を見極めることが日本人の文化の根底にある行動様式の原理である。〔226字〕

## 【添削課題】

出典…森田良行『日本人の発想、日本語の表現』／山梨大学

## 解答

問1 (a) 〓索引 (b) 〓模 (c) 〓ヒルガエ (d) 〓キチヨウメン (e) 〓丹精

問2 (ア) 〓大変な・ひどく (イ) 〓おそらく・推測してみると (ウ) 〓まるで・どう考えても

問3 ① 外国の道路中心の町づくりは、道理にかなっていて能率的だということ。  
② 外国文化を理解するには、日本文化の理解が先に必要だということ。

問4 外国の道路中心の町づくりが無限に広がる可能性を持つのに対し、日本の区画中心の町づくりが世界に繋がらない閉鎖的で窮屈なものであることを、対比的に表したかったから。

問5 日本人が切手を貼るとき、まず全体的な許容範囲を把握した上でその領域に納まるよう貼っていくことに見られるように、日本人はまず全体を設定してからその閉じた領域に納まるよう「個」というものを確立していくと位置づけている。〔解答例〕

## 理解を深める

筆者は日本人の個の在り方を、まず全体を設定して、それから順に同心円の輪を狭めていくという己の在り方を、島国的で閉鎖的で窮屈なものであると批判する。しかし私は筆者のこの主張に反対である。筆者は外国のまず「個」からスタートして全体へと展開させる膨張型の発想を開放的で多くの可能性に開かれている世界観であると述べる。しかしそれは同時に外部へと向かう支配意識や領土拡大の欲望にもつながりかねない。日本人の個の在り方については筆者の主張通りの傾向があるにしても、それを外国の文化と比較して「劣っている」と批判することはできない。私は、文化はそれぞれの文化の中で価値が認められるものであり、絶対的な価値基準のもとで優劣を比較できるものではないと考える。(320字)

## 【添削課題】

出典：恒吉僚子『人間形成の日米比較』／07年愛知教育大

## 解答

問1 a 〓 なじ      b 〓 概      c 〓 さくそろう      d 〓 辞儀      e 〓 滞

問2 ローレンス校では教師が直接生徒に指示を出すことで活動が進むが、南校では教師は必要に応じて指示を出すのみで、基本的には生徒たちが主体となって活動が進んでいく。

問3 アメリカでは自立した「個」の立場が重視されるので、日本社会に見られる小集団の形成は、権力者が統制しやすいように作り上げられたものとしか見えないから。

問4 日本の教師は、実際には生徒たちの集団自治を尊重しているであり、そのために生徒の自治に介入してはいけないという心理的規制を自分に働かせているから。

問5 児童による集団自治の有無から来る、教師の児童統制法。





Z-KAI

会員番号	
------	--

氏名	
----	--